



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

2000年7月1日発行 第24号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

ロンダ市代表団歓迎行事無事終わる

会員皆様のご協力とご努力のおかげで、ロンダ市代表団一行の歓迎行事のすべてが、何事のトラブルもなく、無事終わることができた。

ロンダ市一行7日間の行程の、あらましを次ぎに報告する。

- 2000年4月1日 ロンダ市代表団一行成田着（成田泊）。
4月2日 成田発、横浜着（正午）。
歓迎委員、ナビオス横浜にて出迎え。
ランドマークタワー最上階レストランにて、歓迎委員とウエルカムランチ。
夕刻、下山会長が参加し、代表団と歓迎委員の滞在時旅程の打合せ。
ナビオス横浜泊。
- 4月3日 代表団一行、横浜市議会田野井議長および藤原助役を表敬訪問。
神奈川新聞社を表敬訪問。
マリンルージュ号の船上歓迎昼食会に参加（参加会員数53名）。
夕刻、ナビオス横浜にて、会員との懇親会に出席（参加会員数26名）。
ナビオス横浜泊。
- 4月4日 観光バスにて、協会員と東京千鳥ヶ渚のさくら見物（午前）。
赤坂、ポアソン六三郎にて、日本食の昼食を摂る。
駐日スペイン大使と面談。
浅草へ。浅草寺界隈散策後、帰浜（この日の参加会員数23名）。
ナビオス横浜泊。
- 4月5日 観光バスにて、熱海MOA美術館へ。
MOA美術館見学（日本の美術にふれる）。
MOA美術館見学後、鎌倉へ。
大仏見学後、帰浜（この日の参加会員数23名）。
ナビオス横浜泊。
- 4月6日 マイクロバスにて、歓迎委員および世話役と三ツ池公園、三溪園のさくら見学。その後
西谷浄水場見学、あわせて浄水場内のさくら見学。
中華街にて、歓迎委員および世話役、理事等とお別れ昼食会。
午後フリータイム。世話役と各自ショッピング。
ナビオス横浜泊。
- 4月7日 成田へ（午前）。帰国。

ロンダ市代表団一行の歓びの声！

日本の春を満喫したロンダ市代表団一行が、横浜を去るにあたって4月6日、協会の歓迎委員と中華街で昼食を共にした。そのおり代表団一行が各自、横浜に招いてくれたお礼を述べた。その中から、フランシスコ・ハビエル・トロヤ氏の挨拶と、質問に答えたアントニオ・ラサンタ・グティエレス氏のことばを原文と訳文（要訳）で掲載する。

なお、この原文と要訳は、高柳会員が担当した。

家で過ごすようなくつろぎをありがとう

フランシスコ・ハビエル・トロヤ氏の挨拶

日本にお招きいただきましたことにつき、一言お礼の言葉を申し上げます。

まず最初に申し上げなければならないのは、今回の来日にあたり、私たちのそれぞれが、皆様の中のお一人にお目にかかるだけでも十分であったということです。

すでに団長のホアンが申しましたが、私たちは大変楽しく過ごさせていただきました。心から感謝しております。私たちの家族、私たちの家で過ごしているような思いでございました。

ここで一つこぼれ話をお伝えしましょう。マリア・ホセ・カスターニョさんは飛行機で旅行するのは、今回が初めてでした。最初とても怖がっておりました。でも今は、また日本へ来ることを望んでいることでしょうし、東京や横浜へ来るためにはしょっちゅう飛行機に乗ることと思います。

おたよりを待っております。皆様のおもてなしに心からのお礼を申し上げます。

【原文】

Quiero hablaros algo acerca del viaje de vuestra invitación.

Yo creo que sí hay palabras. Lo primero que hay que decir es que cada uno de vosotros merecía la pena, por sí solo, a cada uno, para venir a Japón.

Ya ha dicho Juan que lo hemos pasado muy bien, que hemos disfrutado y estamos muy agradecidos. Y es verdad. Lo hemos pasado muy bien. Nos hemos sentido como en nuestra propia familia y en nuestra propia casa y os lo agradecemos de corazón. Os voy a contar una anécdota y es que María José Castaño san era la primera vez que viajaba en avión. Al principio tenía mucho miedo y yo creo que ahora quiere volver y montarse en el avión continuamente para venir a Tokio y Yokohama.

Todos, a la mayoría de vosotros creo que a todos, si alguien no la tiene, yo le doy mi tarjeta personal y allí está el E-mail y la dirección del Ayuntamiento.

Escribid y yo voy a escribir también. Os agradezco de verdad que el nos hayais tratado tan bien.

Muchas gracias.



▲MOA美術館にてお抹茶を味わう

日本の「さくらの花」は生きる意欲をもたらす！

アントニオ・ラサンタ・グティエレス氏・質問に答えて

Q「日本へいらっしゃるまで日本をどのように想像していらっしゃいましたか？」

A「数年前から横浜とロンダとの交流にかかわってきた私たちは、日本のことを想像するのではなく、夢みてまいりました。ロンダの町にあこがれていたドイツのある叙情詩人が、ロンダに着いてアーモンドの花が咲いているのを見た時、心身ともによみがえり、生きようという気力をとり戻したと語ってくれたことがあ

ります。私たちも横浜に着いて『さくらの花』を見た時、さらに大きな生きる意欲がわきあがるのを感じました。

私たちは生きるというさらなる意欲を持ってスペインへ戻ります。それは日本の方たちとこれからもコンタクトを持続していくということだからです。日本人は、国と国とを結びつけるに最も大切なもの、つまり文化、理解しあえる文化を持っています。それは食事や絵画を楽しんだり、一緒に散歩をしたりおしゃべりをしたり、あるいは互いに目をみつめあったり、つまりそれはお互いの心を見つめあうことですが、そのような簡単なことを享受しあえる文化を持っています」

Q「一番印象に残ったことは何ですか、それはなぜですか？」

A「他のメンバーも同じだと思いますが、私にとって想像以上に感動したもの、それは日本の伝統文化でした。それは、この現代社会では隠れた存在に思われますが、大きな建物、大きな道路にもまして、私たちはまさにその伝統文化の内に日本人の心を発見しました。私たちが感動するのは、その文化こそがまさに日本人とスペイン人を結びあうものであるからです」

Q「さくらの花をどう思われましたか？」

A「『人生の始めと終わりは、再び生きるためにこそ死ぬ、永遠の人生のはじまりである』これは横浜とロンダを最初に結びあわせた春田美樹氏の言葉であります。『私は死ぬために生き、生きるために死ぬ』とロンダに眠る彼は、その墓標に書き残しました。それは『さくら』がそうであり、私たちの心に花咲くものであり、私たち二つの国民の間の友情を強めるものであるのです」

【原文】

La primera pregunta es: “¿Cómo os imaginábais el Japón antes de venir aquí?”

Nosotros los que hemos estado con Vds. y hemos participado desde hace bastantes años en este contacto entre Yokohama y Ronda no nos podíamos ni imaginar Japón sino que soñábamos Japón. Y en ese sueño que teníamos de Japón, yo, ayer o antes de ayer, os decía que en nuestra ciudad un gran poeta europeo, un gran lírico alemán que soñaba la ciudad de Ronda dijo que cuando llegó a nuestra ciudad y vio florecer los almendros resucitó, volvió a tener ganas de vivir. Nosotros cuando hemos llegado a Yokohama hemos empezado a tener muchas más ganas de vivir cuando hemos visto florecer los cerezos.

Volvemos a nuestro país con más ganas de vivir porque eso significa que vamos a poder seguir estando en contacto con un pueblo, el japonés, que tiene con nosotros lo más importante que une a los pueblos que es la cultura, la cultura entendida como personas que sabemos disfrutar y gozar de la comida, que es cultura, que sabemos disfrutar y gozar de la pintura, que ayer conocimos y que sabemos también admirarnos y disfrutar con cosas tan sencillas como dar un paseo juntos como charlar o como mirarnos a los ojos que es tanto como mirarnos al corazón.

“¿Qué es lo que más os ha impresionado y por qué?”

Soy un poco atrevido a decirlo. Me ha impresionado a mi más de lo que imaginaba y que supongo también habrá impresionado al resto de los representantes del Ayuntamiento de Ronda. Y ha sido precisamente la cultura tradicional japonesa. Una cultura que al principio está un poco oculta por este mundo moderno, ya, ya, ya, perdón, sa, sa, sa, en el que la prisa parece ser lo más importante. Pero por encima de eso, por encima de los grandes edificios y por encima de las grandes carreteras hemos descubierto el corazón de los japoneses en la cultura tradicional. En la ceremonia del té, en los cerezos floreciendo en los árboles y en el arte de Japón y es esa cultura milenaria lo que nos impresiona porque precisamente es lo que más nos une con ese pueblo milenario que también es el pueblo español.

“¿Qué os ha parecido los cerezos en flor?”

El principio y el fin de la vida es el principio de la vida eterna que muere precisamente para volver a vivir, que son las palabras que la persona que empezó a unir Yokohama con Ronda Miki Haruta escribió y que están escritas en sus cenizas que reposan en nuestra ciudad: “Vivo para morir o muero para vivir.” que es lo mismo, que es lo que hacen los cerezos y que es lo que florece en nuestros corazones y lo que afianza la amistad entre nuestros dos pueblos.

歓迎行事に参加した会員の方から感想が寄せられています。
日頃スペイン語講座で鍛えた腕?で本領発揮。
楽しい一時が目に浮かんできます。

—— 歓迎行事体験記 ——

ロンダ市代表団歓迎行事に参加して —— 千鳥ヶ淵散策 ——

—— 江口吉光 ——

会社を休み2日目のバスツアーに参加した。

さて当日の4月4日(火)。前日とは違って変わって素晴らしい天気恵まれ、バスはナビオス横浜を10:00前に無事!? 出発した(実は朝の京浜東北線が事故で遅れ、冷や汗でナビオスに着いたところ、すでに全員がバスに搭乗済み。慌てて乗り込んだのだった)。

車中、ヨランダ教室クラスメイトの小俣さんや、隣り合わせた本田さんと談笑していると、アッと言う間に千鳥ヶ淵へ。

バスを降りたら積極的に一人の女性に話しかけた。それがマリア・ホセ・カスターニョ・ヒメネスさんだった。スペイン語でのコミュニケーションは大変だったが、すばらしい桜や、菜の花を観ながらの会話は実に楽しかった。自己紹介する時、私の名前は長くて覚えるのが大変だから「Sr. Conac」と呼んでくださいと言うと、すぐ覚えてくれ、会話がスムーズに進んだ(ヨランダ先生がスペイン語教室で、私をSr. Conacとあだ名してくれたことに感謝感謝……)。桜の花のこと、子供や仕事の事、結婚式の日西間の違い等など、話はつきない。美しい桜を見ているマリア・パスさんに「¡Qué Mono!」(スペイン語教室で覚えたばかりの表現)と話しかけたら、「そうですね!!」と通じたのだが、この表現は景色ではなく、ファッションにのみ使うとの事。これまた楽しい失敗。

この後ファンさんやフランシスコさん、マリア・パスさん等ロンダ市の人達全員と話をし、交流を深めることができた。特にフランシスコさんからは帰国後、鄭重なお礼状を頂き(まだ私には完璧にはその意味が理解できていないが……!?)ぐっとスペインが近くなったような気がする。次のロンダ市訪問の機会にはぜひ参加したいものである。

協会幹部の方々本当にありがとうございました。

楽しかった親善バスツアー、心より感謝します。



▲千鳥ヶ淵にてカスターニョさんと

—— 歓迎行事体験記 ——

ロンダ市代表団の見学ツアーに参加して

—— 牧瀬 貢 ——

4月5日、6日の両日スペイン語教室受講者の一人として、平素テキストや新聞など目で(読んで)勉強しているスペイン語を耳で(聞いて)生きた言語に接したいという願望で、参加させてもらった。

5日 熱海MOA美術館へ、帰路鎌倉大仏へ。

一路バスで東名と熱海ビーチライン経由で熱海MOAへ。生憎の雨、気象庁の予報通り寒気団の接近で肌寒い春雨であった。途中バスの中で、今回の代表団一人一人に自己紹介や、日本の印象などについて述べてもらい、和気あいあいの中で美術館に到着。まず豪華な建物の造りにびっくり。入り口から高さ200mの一階に辿り着くまでに長い四つのエスカレーターに乗って、その途中に大きな円形ホールが在って、オーロラサウンドの演奏にびっくり。レーザー光線と色とりどりに織り成す幻想の世界は、私達を魅了させた。それ

から展示室へは相模湾を望む庭を通り、三分咲きの桜の花を眺めながら傘をさして進む風情も良かった。

展示室には美術品3,500点を所蔵。その内3点が国宝、60点が重要文化財でした。多くの仏像、国宝の壺、モネやレンブラントの絵や、ムーアの彫刻もすばらしかった。そして能楽堂。何より驚いたのは、豊臣秀吉の有名な「黄金の茶室」の復元だった。

その後、この美術館創立者岡田茂吉が庭園内に建てた草庵風の山月庵で、立礼のお茶をみんなで楽しんだ。代表団の人々も興味深く楽しんでいた。美術館の中野さんの分かり易い流暢なスペイン語での詳しい説明に、ロンダ代表団の皆さんも感心して傾聴し大変好評だった。



▲三溪園にて記念撮影

それにしても彼らにこの、わび (La quietud) さび (La serenidad) の日本の心が理解してもらえたらな、と思いながら帰りのバスに乗り帰途についた。

終日の春雨の中にも、友好的なロンダ代表団と共に、それなりに楽しく1日を過ごした。

6日 この日は前日とうって変わった好天気恵まれ、朝から気温も急上昇。ロンダの皆様も皆元気！さあ横浜市内にある桜の名所の三ッ池公園、西谷浄水場、三溪園へバスで出発だ。

三ッ池公園へのバスの中で、桜博士、池本三郎氏の日本の桜の歴史、桜の木の接木の方法ロンダへの植樹などについて説明を聞きつつあっという間に到着。そこには約50年の樹齢30種1,000本の桜が三つの池を彩り、みんなで見て廻り記念写真を撮ったり「さくら、さくら」の歌を代表団と一緒に合唱もした。

そのあと西谷浄水場に移動し、博物館で所長さんの説明に興味深く傾聴した。説明によると、明治時代イギリス人H. Sパーマーによる横浜水道建設をもとに、大正5年に西谷浄水場が建設されたとのこと。またこの時代に多摩川と相模川からひいた木樋水路の説明もされた。

今横浜市の水道水の美味しさの源は、豊富な水と、この近代的設備によるものと代表団からの声も聞かれ、水不足に悩むアンダルシアのロンダ市から見ると「垂涎的」であるらしい。

この浄水場周りの満開の桜の下には、近所の人達の花見の宴が見入れられ、その人達と束の間の交流もできた。

続いて三溪園へ。園長の濱崎さんから創設者原三溪の造園の話や、内苑・外苑の説明を聞き、御門経由で大池を一周し、満開の桜を満喫した。

代表団の中で、特に公園庭園局長のマリア・ホセ・カスターニョ・ヒメネスさんは仕事から、この日の三ヶ所に殊のほか興味をもたれ、説明内容を克明にメモをとり、写真を撮られていたのが印象的だった。

私自身この日1日中彼女のアテンドをさせてもらい、スペイン語教室受講生として本当に勉強になった。この機会を与えてくださった協会に、改めて感謝いたします。

—— 歓迎行事体験記 ——

本当に素晴らしい一日

—— 中山亜姫 ——

4月6日の朝は緊張の為か、早くに目が覚めた。この日はロンダ市からいらした訪問団の方々と散策する日である。すでに3日の船上歓迎会でお会いしていたが、まだそれほど話をしていなかったこともあり、今日1日が無事に終わるだろうか、足を引っ張るのではないかと、ロンダ市の方々に横浜を気に入ってもらえるだろうか、スペイン語で話しができるだろうか…などの不安があった。

時間を間違えてかなり早くホテルに着いたが、集合時刻近くになるとたくさん人が集まってきて、訪問団のメンバーもロビーに集合した。第一助役兼観光局長のJuanが疲れたようすも見せずに明るく話しかけてくれたおかげで、私も緊張の糸がほぐれてきた。

横浜に住んで数年経つが、恥ずかしいことにこの日訪問する予定のいずれにも、私はまだ行ったことが無かった。そういう意味でも、今日の横浜散策はとても楽しみにしていた。

バスの中で祭典局長のMaria Pazと隣どうしになり、年齢が近いせいかとても気が合った。私と変わらない年齢で局長を務め上げている程だから、なかなか打ち解けないのではないかと考えていたがそんなことは全く無く、仕事以外の話題では私の周りの友人達と何ら変わりはない。実のところ、私が一番心配していたのはこの点だったのである。つまり、訪問団が市役所のメンバーであるということで、なんとなく生真面目で難しい話しかしない人々を想像していたのだ。

ところが実際は、全員が気さくで明るく、とても親切な方だった。私のイメージする典型的なAndalucesだった。

結局この日はMaria Pazと共に行動した。三ッ池公園と三溪園では見たこともないほどの美しい景色にMaria Pazはもちろん、私も横浜に住んでいて本当に良かったと心底思ったほどだった。花見にきていた観光客を「素敵な春の習慣ね」と感心していた。そして「自分も桜の木の下でお弁当が食べたい」と、しきりに言っていたので、次回来日した時にはお花見をすると言う約束も交わした。西谷浄水場では昔の日本の台所が再現されており、ご飯の保存の仕方などにも二人揃って見入ってしまった。

その後、中華街でお別れ会をし、私はMaria Pazや他のメンバーと共に横浜ジャックモールへショッピングに行った。トイザラスではMaria Pazも公園庭園局長のMaria Joséも“ポケモン”グッズを大量に買い、改めて“ポケモン”の人気を認識させられた。

ジャックモールでのショッピングを済ませて、つぎにランドマークタワーとクイーンズスクエアへ行った。「横浜」や「日本」というロゴの入ったものをお土産に欲しかったみたいだが、あまり種類がなかったこともあり結局買うことはできなかった。ここで文化局長のPascualと別れ、Maria Pazと二人で横浜のそごうデパートへ向かった。その際JR線を使ったのだが、初めて乗る日本の電車にMaria Pazは興味津々だった。私が電車に乗ると言ったとき彼女はとても心配していたが、それは彼女が長距離列車を想像しており、お金が足りないと思っていたからだった。と言うのも、スペインでは市内を走る電車はほとんど地下鉄だけであり、130円で地上を走る電車に乗れるとは思っていなかったのだそう。

今回はスケジュールの都合上、少々忙しい横浜散策になってしまったが、Maria Pazは「ぜひまた来浜してゆっくりと花見をし、日本人のようにバスや電車を乗りこなしたい」と言っていた。私自身も非常に楽しい時を過ごすことができ、またロンダ市の方々と知り合い、とても良くして頂き、本当に素晴らしい一日だった。

Maria Pazが「ロンダに来てくれる日本の方々はいつも風のように街を一周して走り去って行く。小さい街だが数日間いると、また違うロンダの魅力を発見できるはずだ」と何度も言っていた。次回スペインを旅行するときは必ずロンダを訪れてゆっくり滞在しようと思う。



▲三ッ池公園にて

ロンダ市代表团 「横浜訪問」を スペインの新聞に 掲載される

去る4月、横浜を訪問したロンダ市の代表团の記事が、4月15日付けのスペインの新聞「ROND SEMANAL」に掲載されたと、ロンダ市に住む日本人の大和田桃子さんより報告があった。大和田さんは同時にその記事が掲載された新聞も送ってきてくれた。それが、ここに掲載したものである。

新聞掲載の写真2点は、一つが駐日スペイン大使館を表敬訪問したさい、大使公邸の玄関先で、大使夫妻と撮ったもの。もう一つは、横浜市議会の田野井議長（当協会参与）を表敬訪問したさい、ベニテス副市长がロンダ市のメダルと記念の品を田野井議長にプレゼントしたときのものである。

初の試み “自主映画上映会” 大盛況のうちに終わる

横浜スペイン交流協会創立10周年記念行事の一つとして、半年以上前から企画して来たスペイン映画会が6月13日、関内ホールで行われた。

上映作品は、鬼才と云われるスペインの監督、ペドロ・アルモドバルの「私の秘密の花」。

折しも、ペドロ・アルモドバル監督は今年のアカデミー賞でオスカーを獲得（受賞作品は「オール・アバウト・マイ・マザー」）話題沸騰で、思いがけずもタイミングの良い上映会となった。

「私の秘密の花」は1995年製作の作品で、アルモドバル監督としては比較的小となしい作品だが完成度が高く、センスが良いとの評判のものである。とはいっても、彼らしい大胆な手法が随所に見られ、また現代スペインの社会の一端を垣間見ることができる作品で、大変興味深く、観に来て下さった方々の評判もなかなか良かった。

ウィークデーの昼間という条件にもかかわらず、大ホールに約500人の観客を動員することが出来た。スペイン大使館の後援を得、またNHKのスペイン語講座テキストに掲載されたことや、インターネットというニューメディアに載せてもらったりという効果もさることながら、多くの会員や関係者の方々がそれぞれに大変協力して下さったおかげである。映画上映担当者としては、当協会のようなボランティア団体がひとつの事をやる時に、こうした協力をし合ってこそ意義あることだと思いつくづく感じ、また心から感謝の気持ちでいっぱいだった。この場を借りてご協力頂いた皆様に心からお礼申し上げます。

▲多くの観客が押しかけた

INTERCAMBIO ● UNA DELEGACIÓN DEL AYUNTAMIENTO DE RONDA VISITÓ VARIAS CIUDADES JAPONESES

El auge del turismo nipón y las relaciones culturales protagonizan un viaje "fácil"

El viaje a Japón de una delegación municipal servirá para profundizar las relaciones



FOTO DE FAMILIA. El grupo rondense posa en la recepción diplomática española junto al embajador Leizaola.

Redacción
El viaje ha servido como vehículo para la promoción que el Ayuntamiento de Ronda realiza a la Asociación de Ayuntamientos de España y Europa, ANUE, durante la feria de Pedro Romero de 1998.

La delegación rondense encabezada por el primer Teniente de Alcalde, Juan Antonio, está formada además por los concejales: Manuel del Río, Antonio Lázaro, M. José Gálvez y M. José Hernández, y el Jefe de Protocolo, Francisco Troya.

Durante sus visitas previas, el grupo rondense visitó Yokohama, Tokyo, y las ciudades tradicionales de Aizu y Niigata.

El motivo central del viaje, marcado por la asociación japonesa es el auge que la contemplación de la floración de los cerezos, de capital importancia en la espiritualidad nipona.

La delegación de M. del Río, M. José Gálvez, capitaneó el grupo y las esperanzas de los concejales que tenían en el primer Teniente de Alcalde, Juan Antonio, para conseguir que se les permitiera visitar las ciudades de Aizu y Niigata.

En Yokohama, la delegación se reunió con el presidente de la Asociación Municipal, Kazuo Tabei, el Primer Teniente de Alcalde de la ciudad, Akio Fuga, y diversos representantes. Asimismo, la asociación ANUE.

Para el Primer Teniente de Alcalde, Juan Antonio, la delegación rondense que se reúne a los hoteles políticos, sociales y culturales, realizados durante el curso período. "No solo es todo aquello que se hace que vive con el intercambio de relaciones con la asociación ANUE, sino también con la posible realización de proyectos culturales o de posibles intercambios de estudiantes".

Respecto al destino "personalmente aceptable" por la visita turística y la documentación turística del país del sol naciente, "muchos países de la que normalmente son imaginarios".

La actividad y la acogida prevista por la Asociación ANUE y los ayuntamientos japoneses han sido la clave para que el viaje pueda celebrarse con éxito. "Es el" para la delegación rondense que se ha convertido en un viaje muy satisfactorio por la experiencia vivida.



ENTENDIMIENTO. Benítez entrega un medallón al Presidente de Yokohama.



充実のスペインサロンますます好評！

■ 4月のスペインサロン

パルマ（フラメンコの手拍子）の真髓に参加して

千葉博子

4月15日 あいにく雨の降る中、会場に着くともう小島武士さんらしき方と係りの方々が準備をしておられました。

会が始まり小島さんご自身の紹介からスペイン舞踊の歴史等のお話の部分では、私の趣味には一寸合わず、困ったなと思って居ました。しかしながら、踊りのお話が具体的な動作のことに移ると次第に楽しくなりました。

手拍子でリズムをとり、それにまた一人加わり相手を見ながら複雑な音とリズムを身体全体で創り出しそれに合わせて踊る。扇の開き方・閉め方、パリージョの鳴らし方、姿勢を正し背筋を伸ばして歯切れの良い靴音、美しい裾さばき、どれを取っても楽しく見たり音を聞いたりする事ができました。

裏話でステージに滑り止めに今回はオレンジジュースで拭いた事等、伺うことができました（もちろん、最後に私達で拭きおとしてきました）。

私はスペイン音楽とフラメンコは以前よりとても好きでしたが、今回の参加で尚一層ファンになりました。素的な企画ありがとうございました。



▲手拍子でリズムを取る

■ 5月のスペインサロン

5月20日は当協会の賛助会員である、レストラン「パダール・デ・かまくら」の竹山健太郎さんに、スペイン・ハプスブルグ・カルロス五世への思いを語って頂きました。

カロルス五世ゆかりのパダール、ハランダージュに泊まったのがきっかけで、竹山さんはすっかりこの王様のとりことなり、生誕の地ベルギーのアントワープからスペインでの終焉の地、ユステの僧院までの足跡を自分の足で訪ね歩かれました。親しみやすいエピソードを交えたお話に、スペイン各地に残る中世の歴史ロマンはさらに私達の身近になり、スペイン旅行にまたひとつ魅力を感じるようになった一日でした。

スペインサロンへのお誘い

スペインサロンは、毎月第3土曜日、2時～4時に開いています。このところ、講演会的なサロンが続きましたが、これからは、もっと気軽に皆がおしゃべり出来る楽しい会にしていくつもりです。スペインへの熱い思いを大いに語り合いたい方お集まりください。

通常、参加は無料（非会員は、500円）

※今後のサロンの予定

7月、8月は休み

【9月のサロン】

・9月16日（土）県民サポートセンター 711号室
フリートーク

【10月のサロン】

・10月21日（土）神奈川自治会館 602号室（予定）
ルイス・セボジャータと話そう！



▲思いは熱く参加者を引き付ける

★★★★★賛助会員紹介（第4回）

カサ・デ・フジモリ

東京オリンピックの年にメキシコを訪れたのがスペイン語圏との最初の出会いです。国内に色濃く残るスペイン文化に興味を持ち、歴史や食文化に目が向いている頃、スペイン料理を手がけた経験がある料理人と知り合い1970年、無謀にも関内の現店舗より少し離れたところでスペイン料理の看板を掲げてしまいました。珍しさも手伝ってか、お蔭様で繁盛し、このため手狭になったので1972年、現店舗に移転しました。この移転を機会に料理長と共にスペインに出かけ、スペイン料理、スペイン文化に益々のめりこんで行きました。フランコが存命中での統制社会の中、テレビ等による情報化がまったくと言って良いほど進んでなく、生活に密着している各地方の伝統的な料理が印象的でした。



▲カサ・デ・フジモリ店内

私共の料理は当時より、スペイン各地を訪ねた代表的で味に面白みのある料理を選び日本の皆様にも充分楽しんでいただけるものと、工夫を凝らしてまいりました。私共のレストランに飾られているスペインの民芸品は、その際に収集した愛着の在る品々です。当店で初めてスペインに触れられる方、お住みになったり旅したりして懐かしく思われる方にスペインをじかに感じていただけるよう、スペイン人が手にした生活の匂いがする古民具が多く飾られております。

料理に関しても同様に、郷愁を感じられるスペインの味をお届けできるよう、機会をとらえてコックを派遣し、現地のレストランで研修させております。関内店前にあるバール・エスパニョールは、タパスとワインを中心にした、スペインを知ってらっしゃる方はどなたでも好きになってくださる、気軽にスペインがたくさん詰まっているバール派のお店です。横浜スペイン交流協会の皆様には、日頃より当店をご利用いただき深く感謝いたしております。今後ともスペイン料理を通じて、スペイン文化の紹介に勤める所存で御座いますので、宜しくお願い申し上げます。

代表 大森悠爾



◆◆◆◆◆新刊紹介◆◆◆◆◆

『スペインハプスブルグ・ カルロス五世の旅』

上野健太郎著 JTB出版事業局発行 定価1,500円（税別）

交通不便な16世紀、全ヨーロッパを出張統治したカルロス五世の足跡すべてを辿った紀行文。なお、著者の上野健太郎氏は当協会賛助会員のスペインレストラン「パラドール・デ・かまくら」のオーナーである。



2000年のセマナ・サンタをバエナで

— 石 川 純 子 —

4月16日、待ちに待ったスペイン旅行の始まり、6ヵ月以上も前から、何度も話し合い、記念すべき2000年のセマナ・サンタをバエナで過ごすことになったのです。

ことの始まりはルイスさんの「坂道へ太鼓を持って」を、スペイン語教室で、テキストとして読んでからのことでした。先生を始め、横浜スペイン交流協会の方々、そしてバエナの方々の温かいお力添えのお陰で、私達は思いがけずバエナに行くことが出来ました。コルドバから、タクシーに乗り、一時間半位でバエナに着きました。途中、サンタ・クルス・エスペロ、カストロ・デル・リオ等で車を止めてもらいました。ルイスさんの本の通り、オークルと赤茶系の屋根と白い壁の家とが、小高い丘をつつみこむようにあり、必ずと言っていい程、その一番高い所に教会の塔が見えました。そして一つの町をすぎると、オリーブ畑以外何もない乾燥した赤茶けた大地の所々に、アマポーラやマルガリータ（日本のマーガレットよりは大きめ）、そして黄や紫色、ピンクの野の花が、可憐に咲いている道が続きます。

そんな町の一つがバエナだったのです。思っていたよりも大きな立派な街でした。まず驚いたことに、車が街に入ったか入らないうちに、あのタンボール（太鼓）の音が響いて来たのです。そして本にあった通りの赤いジャケットに黒いズボン。頭には白や黒の馬のしっぽの毛をふさふさとつけた、金ぴかの兜をかぶり太鼓をたたきながら、あちらの路地、こちらの路地から、子供も大人も三々五々集まってくるのです。石畳の狭い曲がりくねった道を登って行くと、頂上近くに急に開けた所に出ます。そこが市役所の広場です。

ここで市役所のミゲルさんより、カロルスさんという好青年を紹介して頂き、三日間お世話になることになりました。彼はきっと私達一行がこんな熟年ばかりだとは思ってもいられなかったと思います。

『ごめんなさいね、ジジ、ババばかりで』と心の中であやまりながら、行列が通る一番見やすい場所へと案内していただきました。そこにはもう多勢の人がいました。殆どがお年寄りとお赤ちゃんとそのお母さんです。2、3歳の子供から65歳位までの方々は、全員セマナ・サンタの行事に参加しているようでした。

狭い通りを抜けて少し広い通りに出ると、道の両側に各家々から椅子を出してそこに座って行列をみます。信徒会によって赤、緑、紫、黄、黒等、色が違い、とてもカラフルなユニホームでいくら見ても飽きず楽しいものです。そして何よりもやっと歩けるような幼い子供達も同じユニフォームを身につけ、一生懸命歩き小さな太鼓をたたいているのです。中にはいねむりをしながら、やっと歩いている子もいました。泣いたり、だだをこねたりする子は一人もいません。バエナの子供達は、お母さんのお腹の中にいる時から太鼓の音をきいて育ったそうです。

2日目の聖金曜日には朝四時起きをして、カロルスさんの案内で、満月に少しかけた月明かりを頼りにまっ暗な街を丘の教会まで登って行きました。教会に近づくにつれて人の数は多くなり、前の人につかまってないと迷子になってしまう程でした。

教会には悲しみの色の紫のアイリスで飾られたキリストの像が、すべての人々の苦しみを大きな十字架に託して、背おっていらっしゃいました。その興が多勢の人々にかつがれて正面の扉から出ると、その真前の建物の三階のテラスから、身動きもできない程の多勢の人が一時、息を止めてしまったかのような静寂さの



▲バエナ市役所で（筆者右端）

中で神父様の御言葉があり、サエタが歌われました。それからまたしずしずと教会を出た輿は、狭い曲がりくねった道をゆっくりゆっくりと下って行きます。何回も休みながら、そして椅子に座って見ている人々は輿が自分の前を通る時は直立して見送ります。マリア様の美しい刺繍や、レースで飾られた長いビロードのマントのようなケープが、右に左にとゆっくりゆっくり揺れながら行くのを見ると、信者でない私でも何か胸にジーンと来るものがありました。



▲子どもたちのタンボールの音が響く

いつのまにか真暗だった空が、深い吸込まれるようなブルーに変わる頃、どこからともなくチチ、チチと小鳥の鳴声がし、夜が明けかかって来たことに気がきました。私達六人も、すっかり街の人々の中に溶け込んでしまったような気がしました。

昼食をとったカフェテラスにも、タンボールをたたきながら三々五々入って来ます。タンボールの行列が続くと、その力強い大きな音だけで他に何も聞こえなくなります。お腹の奥の奥までずっしりと、ひびき浸み込むような音です。不思議なことにずっと聞いていると、その中に何とも言えぬ静寂さを感じました。

こんなにも街中一家族のように心をつにして、一つの事に打ち込めるバエナの人々は、なんて幸せなのでしょう。子供からお年寄まで皆、温かい親しみのある眼差をし、どこことなく気品があるのには感心させられました。

3日目には用意していった折紙、人形、色紙等を持って市長様を表敬訪問いたしました。その後、オリーブ工場見学に招待されました。無農薬のオリーブから昔ながらの手作業で、オイルを抽出する工程をみせていただきました。大きな石臼、つぶしたオリーブを浸み込ませる円形のマット（昔はい草のようなもので現在はビニール）、大きな瓶、ガソリンスタンドのようなマンホールの蓋のある地下貯蔵所、フルーティで良質なオリーブオイルを作るには、温度管理がとても大切なのだそうです。こんなにもフルーティな、美味しいオリーブオイルがあるなんて初めて知りました。

世界一美味しいオリーブオイルと、素晴らしいセマナ・サンタの行列をみせて下さったバエナの方々、ムーチャス・グラシアス・ポール・トド。

願わくばいつまでもいつまでも、バエナが今のままでありますように！

横浜スペイン交流協会会報 「AIYES通信」編集委員募集!!

会員の皆様への唯一のインフォメーションツールである「AIYES通信」は年間4回発行しています。いずれも会員のボランティアで成り立っていますが、この「AIYES通信」の新しい編集委員を募集します。

特に資格といったものはありません。会員であればどなたでも結構ですが、できればワープロのできる方を望みます。

仕事は協会が行なう各種イベントの取材と原稿執筆、原稿依頼、校正などです。ふるってご応募下さい。

問い合わせ先

伴野芳信

2000年度定時総会開催のお知らせ

来る7月7日（金）、協会設立10周年記念フィエスタに先だって、下記の通り総会を開催する。
本年度の総会は、協会創立10年という節目の年でもあり、多くの会員の参加を希望する。
なお、本年度は総会後の懇親会を取りやめ、協会創立10周年フィエスタに合流することにした。

— 記 —

日時：2000年7月7日（金） 午後3時30分

場所：かながわ県民活動サポートセンター711号室（7F）

協会創立10周年記念の最後を飾るイベント “フィエスタ” 開催

会報等でご案内している、当協会設立10周年にあたる本年は、くしくも2000年というミレニアムの年でもある。

4月にはロンダから、代表団の方々をお招きし、また6月にはスペイン映画を自主上映したり、また7月には作品展の「私達のスペイン展」を開催したりと、種々のイベントが目白押しだ。

そしてこの10周年記念イベントの最後を飾るにふさわしいものが、7月7日（金）横浜駅西口の、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズの日輪の間に催される“フィエスタ”だ。

これには、湘南ゾリステンの弦楽四重奏、会員でプロ歌手の上野淑子さんのスペインの歌の歌唱、アトラントのフラメンコなど、アトラクションも豊富だ。

また、このフィエスタにはホァン・レニャ駐日スペイン大使夫妻も参加を予定しているばかりか、日本各地のスペイン協会の方々の参加も予定されている。会員各自も、友人・知人を誘って、ぜひともこのフィエスタに参加し、日本各地にあるスペイン協会の方々との交流を深めて欲しい。

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

先般皆様のお手元にお届けした会員証を提示することで、下記の賛助会員各社より、各種のサービスを受けることができます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオーリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア一杯
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア一杯
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア一杯
カサ・デ・フジモリ目黒店	J R目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア一杯
アランフェス	横浜スカイビル11階	045-442-0581	サングリア一杯
アマポーラYokohama	横浜ルミネ6階	045-453-6851	サングリア一杯
バラドル・デ・かまくら	江ノ電長谷駅そば	0467-22-6798	サングリア一杯
太陽海外航空機	東京都中央区京橋2-2-14山陽アネックスビル	03-3281-2441	日本出入国カード作成料及び成田空港使用料を負担する
JTB団体旅行横浜支店	横浜市中区相生町4-75 JTB、YN馬車道ビル	045-664-2730	ツアー料金割引（添乗員付だけ）ルックJTB、JTBエース各3%、旅行用品割引トラベランド店にて10%割引特別カード進呈
アトリエJUNE	横浜市神奈川区西神奈川1-6-1 サクラビル701	045-313-9417	押し花額制作代の通常価格から10%割引

<編集後記>

ロンダ市代表団の歓迎行事が終了しました。紙面の都合で3名の方の感想を紹介するにとどまりましたが、皆ますますスペインが好きになったのではないのでしょうか。

さて記念行事はまだまだ続きます。総会、フィエスタと皆様参加をお待ちしております。

* 投稿寄稿宛先 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター内
かながわ県民活動サポートセンター
レターケースNo.184 横浜スペイン交流協会会報係